

原水爆禁止 2020 年世界大会(オンライン)
2020 年 8 月 6 日
中満泉国連事務次長・軍縮担当上級代表

松井市長
ハイノツィ大使
ご来席の皆様

本日、この世界大会にまた参加することができ、ご列席の広島と長崎の勇敢な生存者である被爆者の方々の証言を拝聴できることを、大変光栄に思います。本日、広島が壊滅から 75 年周年を迎えるにあたり、核兵器の恐怖や核兵器がもたらす苦しみ、その比類なき破壊力、そして核兵器の全面的廃絶を実現する必要性について、私たちが今一度考える良い機会となれば幸いです。

そうすることが、人間が受けた苦難と破壊の生き証人である被爆者の方々へ、心からの敬意を表すことになります。75 年もの間、被爆者の方々は復興と和解の象徴として、生きてこられました。本日彼らは当時の惨状について話されましたが、その話は希望にも満ちておりました。将来の世代がもっと平和で安心して暮らせる、そんな世界への希望です。

国際連合はその設立当初から、核兵器の廃絶を果たすべき使命としてきました。

それには、3 つの主な理由があります。まず、核兵器は比類のない破壊力を持っているということです。今日の核兵器は、1945 年 8 月に使用されたものよりもはるかに強力です。次に、核兵器は、気候変動と並び、地球上の全ての生命を脅かす二つの脅威の一つです。戦争で数発の核兵器が使用されるだけで、環境の徹底的な破壊を引き起こします。最後に、核兵器の使用によって起こる人道上的大惨事に適切に対処できる国は世界に存在しません。

今日、私は、国際社会における核兵器のない世界を迫及する動きが停滞しているだけでなく、後退してしまっていることを大変憂慮しております。この 75 年間、特に冷戦終了後、国際社会は核兵器の使用防止や全面的廃絶の実現のために、様々な条約やメカニズム、協定からなる枠組みを構築してきました。私たちは、核兵器の使用や実験、核兵器の拡散に反対する強固な理解を共有するようになりました。そして、核兵器の大幅な削減や、安全保障政策における核兵器の役割の低減を見てきました。

しかし、こうした歴史的な成果も、核保有国間の対立の激化と共に崩れかけています。核保有国によっては、核による絶滅の恐怖に日々怯えて生きていた頃の冷戦の暗い経験を忘れてしまったようにも見受けられます。さらに、核戦争に勝者はなく、決して行われてはならないという重要な教訓でさえ振り捨ててしまったようです。そして対立、不信感、対話の欠如により世界が抑制のきかない戦略的核競争の時代に舞い戻る恐れが出てきています。

核軍縮への共通の道筋へ立ち戻る方法を見つけるのは確かに気が遠くなるような挑戦ですが、ここで忘れてはならないのは、われわれの集団的な努力による重要な成果のいくつかは、核兵器国の間の緊張が最も高い時に達成されたということです。当時世界の国々は、敵対関係にあった国も含め、政治的意志を見出して、現在では核不拡散と核軍縮の基盤と見なされる核兵器不拡散条約などの画期的な条約の交渉を始めました。

私は、今日においても、国際社会はそのような政治的意志を見出だすことができると信じていま

す。そして、そのような政治的意志を生み出すために市民社会が果たす役割に目を向けるべきです。

歴史的に見て、市民社会の専門知識や政策提言活動、そして情熱が、軍縮における集団的努力を勢いづけてきました。地雷やクラスター弾などの非人道的な兵器の禁止から核実験の停止まで様々な問題に向き合うための資源、道義心、そして原動力となってきました。

市民社会は、被爆者の方々と共に、核兵器禁止条約の実現に拍車をかけてくれました。彼らは、多くの国がいただいていた核軍縮の遅々とした歩みに対する不満に火をつけ、条約の交渉へと結びつけるのに貢献したのです。そして発効の暁には、この条約は核軍縮体制の一つの柱となることでしょう。

この大会に多くの著名な市民団体が出席されていますが、私はこの機に、皆様が今なされている努力を倍増し、皆様の団体の間で、また国連加盟国と連携し、現在の危険な潮流を覆し世界が核兵器廃絶という共通の道筋へと戻っていくよう呼びかけます。

国連は、皆様の声が聞かれ、皆様の意見に耳が傾けられるよう、引き続き尽力致します。

私たちが今置かれている状況は、被爆者の方々の教訓や体験を、これまで以上に必要としています。国連は、被爆者の方々の証言が継承され、できるだけ多くの人々に、特に将来世界の平和を築く若い世代に、その声が必ず届くように常に心掛ける所存です。

この点が重要なのは、国連事務総長が申し上げましたように、「世界の若者はすでに軍縮という理念のために自分たちの力を発揮できることを幾度も証明してきた」からです。この世代は数々の地球規模の問題に直面しており、核兵器の問題を含め、私たちすべてが、今彼らと協力して解決策を探す義務があります。

多国間主義と国際協力が重要な意義を持ち続けるには、若者の声を聞く場を作り、彼らと一緒に協力していくことができるかどうかにかかっています。国連設立75周年の節目に、私は、責任あるリーダーシップの重要な要素とは、若い人々に必要な知識とスキルを備えるだけでなく、創造力を引き出し、彼らとの関わりを深めることにあると確信しています。

新型コロナウイルスは、今、世界中で個人や社会に猛威を振るっていますが、私たちは国際社会として一丸となって立ち上がらなければなりません。もしこのコロナウイルスが私たちに何らかの教訓を与えたとするならば、それは、地球規模の問題には地球規模の解決策が必要であり、私たちは全ての人間の安全保障に焦点を当てなければならない、ということです。

75年というあまりにも長い間、私たちは核兵器による絶滅の脅威という暗い影の下で生きてきました。しかし、光の中へ踏み出すのに遅すぎるわけではありません。被爆者の方々のため、この厳粛な機会に、より安全且つ安心な世界、核兵器のない世界の実現を皆様で再度誓いましょう。

二度と広島と長崎の惨事を繰り返さないように。ノー・モア・ヒロシマ、ノー・モア・ナガサキ。